

ふれあい ひびきあい 学び合い
かがやくたけのこキッズ

えだわんだより

横浜市立荏田東第一小学校

◆〒224-0006 横浜市都筑区荏田東三丁目5番1号

◆Tel…045-941-7630 Fax…045-942-9464

◆<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/edahigashi/>

10月

「オンラインでいいじゃない。」なのか

学校長 熊谷 潤平

まだ夏は終わってないぞ、とばかりに元気に鳴くミンミンゼミの声を聞きながら、金木犀の香りを感じたのは9月もまだ上旬の頃。例年より随分と早い…。蝉と金木犀の同時体感は、令和3年度という年の特異さを象徴している気がします。

昨年もコロナ禍だったとはいえ、8月も9月も、校舎には全校児童の元気な声と姿がありました。でも、今年は緊急事態宣言・分散登校により、日々の児童数は寂しく約半分です。状況を踏まえ、スポーツフェスタは10月30日に延期。5年の宿泊体験も11月に日帰り、6年の日光宿泊は12月に延期としました。

分散登校の不安・心配がある中、本校では9月2日からオンライン授業に挑戦しました。通信の不具合やタブレット操作など、保護者の方から多大なる支援を頂き、なんとかオンライン授業を実現することができました。本当にありがとうございました。

さて、挑戦してみて、オンライン授業ならではの長所と課題が見えてきました。

長所は、何と言っても、「離れていてもつながれる」ということです。分散登校であっても授業に参加できる。友達の笑顔が見られる。元気な声が聞ける。また、タブレットを通してなら、不思議と照れや恥ずかしさがなく、あるいはより楽しく、発言・発信できるという児童も見られました。

翻って、課題は、「通信の不具合」「疲れ」「集中持続の苦しさ」「座学への偏り傾向」などが挙げられます。6年児童に取材したところ、「緊張する」「飽きる」「長い」などの声が聞かれました。ずっとタブレットの小さな画面を見つめ続けるのは、確かに疲れます。かといって飽きにくい、楽しい活動的な学習をしたくても、カメラで中継をする以上、大幅な制限は避けられません。

「オンライン授業になると意欲的になる子、オンライン授業を楽しめる子がいる一方で、オンライン授業にまだ慣れない子、タブレットの使い方が分からず困っている子がいる。」とは、本校職員の週指導計画に書かれた言葉です。授業者ならではの実感がこもっています。

それでも、皆様の御理解・御協力のお陰様で、荏田東第一小学校が、教室と家庭で同時同内容の授業をすることができたという事実は大きな収穫です。

そしてもう一つ、大きな収穫が。それは、画面越しでない、生の、ライブの授業のすばらしさ・意義を再認識できたことです。教室にみんながいる。すぐそばに仲間がいる。担任がいる。笑顔・笑い声がある。表情の機微、息遣いを感じる。時に熱い議論ができる…そのありがたさ。対面授業ならではの臨場感と充実感・楽しさ・喜びが、教室にはあるのです。

クイズタレントとして有名な伊沢拓司さんは、自ら起業し学校訪問もしています。彼は語ります。「コロナ禍の中、『学校はオンライン授業でいいじゃないか』という声を聞く。しかし、様々な学校に行くと、『決してそうではないんだ、直接対面でなければ得られない学びがそこにあるんだ』という子どもたちの姿・声を目の当たりにする。」大いに頷けます。

もちろん、これからも社会や個の実態に応じてオンライン授業は活用していくべきでしょう。オンライン授業こそ自分には合っているという子がいてもいい。しかし同時に、仲間がいる教室でこそ、実現可能な学習や成長があるということをお忘れずにいたいと思います。

学校現場は、「GIGA構想の推進・個別最適な学びの実現」と同時に、「働き方改革」を要請されています。自動車の運転に例えれば、アクセルとブレーキを同時に踏めと言われていたようにもありません。誰も正解を知らない難問に向き合いつつ、これからも、試行錯誤を繰り返しながら、えだわん・荏田東第一小学校の挑戦は続きます。